

◎指示があるまで開かないこと。

(令和3年2月7日 16時00分～18時30分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	(c)	(d)	●

答案用紙②の場合、

101		101
(a)		(a)
(b)		(b)
(c)	→	(c)
(d)		(d)
(e)		●

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	●	(b)	(c)	(d)	●

答案用紙②の場合、

102		102
(a)		●
(b)		(b)
(c)	→	(c)
(d)		(d)
(e)		●

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e へき地で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
103	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> e

↓

答案用紙②の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
	<input type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

- (3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35%。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ②

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を、②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
104 ②	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

104	
①	②
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9







1 栄養素とその欠乏によって起こる病態との組合せで正しいのはどれか。

- a マグネシウム ————— 味覚障害
- b ビタミン A ————— ペラグラ
- c ビタミン C ————— 出血傾向
- d カルシウム ————— 貧血
- e 亜鉛 ————— 夜盲

2 医療者が身につけるもの(別冊No. 1 ①~⑤)を別に示す。

個人防護具[Personal protective equipment<PPE>]でないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

<p>別冊 No. 1 ①~⑤</p>
-------------------------

3 メタ分析<メタアナリシス>について正しいのはどれか。

- a 異なる指標を統合することができる。
- b 指標を統合することで標準誤差は大きくなる。
- c 研究から抽出した指標を用いて統合指標を算出する。
- d できるだけ多くの研究を選択して出版バイアスを防止する。
- e 対象者をプールすることでデータを統合して再解析する研究である。

4 成人において、自閉症スペクトラム障害に比べて注意欠陥多動性障害(ADHD)で高頻度に見られる症状はどれか。

- a 視線が合わない。
- b 冗談が通じない。
- c ケアレスミスが多い。
- d 的はずれの応答が多い。
- e 左右対象であることにこだわる。

5 胎児心拍数陣痛図の遅発一過性徐脈の原因となるのはどれか。

- a 過強陣痛
- b 臍帯圧迫
- c 児頭圧迫
- d 胎児貧血
- e 母体発熱

6 逆耐性現象を示す精神病症状をきたすのはどれか。

- a LSD
- b 大麻
- c アルコール
- d ジアゼパム
- e メタンフェタミン

7 呼吸機能検査を行ったところ、肺活量 4,200 mL、1 秒量 3,200 mL、努力性肺活量 4,000 mL、予測肺活量 3,900 mL、予測 1 秒量 3,000 mL であった。

1 秒率(FEV<sub>1</sub>%)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第 1 位を四捨五入すること。

- a 70
- b 71
- c 80
- d 82
- e 107

8 がん検診を規定している法律はどれか。

- a 健康増進法
- b 健康保険法
- c がん対策基本法
- d がん登録推進法
- e 高齢者医療確保法

9 我が国の世帯構成について正しいのはどれか。

- a 世帯数は増加傾向にある。
- b 三世帯世帯は単独世帯より多い。
- c 単独世帯は核家族世帯より多い。
- d 65 歳以上の者のみの世帯は全世帯の過半数を占める。
- e 核家族世帯の中ではひとり親と未婚の子のみの世帯が最も多い。

- 10 各病態で使用する医薬品と投与経路の組合せで正しいのはどれか。
- a アナフィラキシーショックにおけるアドレナリン —— 筋肉注射
  - b 下腿挫創における破傷風トキソイド —— 静脈内注射
  - c 高血圧緊急症におけるカルシウム拮抗薬 —— 舌下投与
  - d 糖尿病性ケトアシドーシスにおけるインスリン —— 皮下注射
  - e 熱性けいれんにおけるジアゼパム —— 皮下注射
- 11 予防接種法で任意の予防接種に含まれるのはどれか。
- a MR ワクチン
  - b 水痘ワクチン
  - c 日本脳炎ワクチン
  - d おたふくかぜワクチン
  - e ヒトパピローマウイルス〈HPV〉ワクチン
- 12 78歳の男性。血清クレアチニン値1.0 mg/dL、24時間蓄尿量1,000 mL、蓄尿中クレアチニン濃度72.0 mg/dL。
- クレアチニンクリアランス(mL/分)の数値はどれか。
- ただし、体表面積補正なしで、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。
- a 10
  - b 14
  - c 50
  - d 72
  - e 78

- 13 公的医療保険について誤っているのはどれか。
- a 現金が給付される。
  - b 主たる財源は保険料である。
  - c 被用者保険の加入者が最も多い。
  - d 国民はいずれかの医療保険に加入する。
  - e 小学校就学前の自己負担は2割である。
- 14 健康診断の尿沈渣で各視野に1つでも認められたとき異常となるのはどれか。
- a 赤血球
  - b 白血球
  - c 顆粒円柱
  - d 硝子円柱
  - e 扁平上皮
- 15 死亡確認された成人遺体で、背部から下腿後面にかけての死斑と顎関節および四肢関節の硬直がみられた。角膜の混濁はみられず、直腸温は32℃であった(外気温20℃)。
- 推定される死後経過時間はどれか。
- a 1時間以内
  - b 6～12時間
  - c 24～30時間
  - d 36～42時間
  - e 48時間以上

16 悪性腫瘍とリスクファクターの組合せで正しいのはどれか。

- a 乳 癌 ————— 多 産
- b 肺 癌 —————  $\beta$ -ナフチルアミン
- c 結腸癌 ————— 炭水化物
- d 子宮頸癌 ————— EB ウイルス
- e 中咽頭癌 ————— ヒトパピローマウイルス〈HPV〉

17 縦隔条件の胸部造影 CT (別冊No. 2) を別に示す。

異常所見を示す心臓の部位はどこか。

- a 右 房
- b 左 房
- c 肺動脈
- d 右心室
- e 左心室

別 冊

No. 2

18 絶食時の代謝状態として正しいのはどれか。

- a 血中のケトン体が低下する。
- b 肝臓にグルコースが流入する。
- c 肝臓から骨格筋に乳酸が運ばれる。
- d 骨格筋からアミノ酸が放出される。
- e 中枢神経で遊離脂肪酸が利用される。

- 19 創傷の治療・処置について誤っているのはどれか。
- a 異物を除去する。
  - b 黒色壊死は温存する。
  - c 深部臓器の損傷を確認する。
  - d 非感染創は一期的に縫合する。
  - e III度熱傷では植皮が必要である。
- 20 10 か月児に認められる反射はどれか。
- a 吸啜反射
  - b Moro 反射
  - c 手掌把握反射
  - d パラシュート反射
  - e 非対称性緊張性頸反射
- 21 100 mGy 以上の放射線被曝が原因で胎児奇形(構造異常)が発生する可能性が高い時期はどれか。
- a 受精 0～8 日
  - b 受精 2～8 週
  - c 受精 8～15 週
  - d 受精 15～25 週
  - e 受精 25 週以降

- 22 我が国の精神保健について誤っているのはどれか。
- a 精神科診療所の数は増加傾向にある。
  - b OECD 諸国と比べて人口当たりの精神科病床数が多い。
  - c 医療観察法は自殺念慮の強い場合の入院に関する法律である。
  - d 精神科救急医療システムは都道府県や政令指定都市が取り組む。
  - e 精神保健福祉センターでは精神障害者福祉手帳の障害等級の判定を行う。

- 23 即時型食物アレルギーの検査として誤っているのはどれか。
- a パッチテスト
  - b プリックテスト
  - c 食物経口負荷試験
  - d ヒスタミン遊離試験
  - e 抗原特異的 IgE 検査

- 24 平均寿命を表す数値はどれか。
- a その年の死亡者の年齢の平均値
  - b その年の最も死亡率の高かった年齢
  - c その年に最も多くの死亡者がいた年齢
  - d 生命表から作成した生存率曲線下の面積
  - e 生命表から算出した生存率が 50 % になった年齢

25 労働衛生管理の手法として生物学的モニタリングが用いられるのはどれか。

- a 過重労働
- b 気分障害
- c 筋骨格系障害
- d 有機溶剤中毒
- e 電離放射線障害

26 2019年以前の我が国におけるインフルエンザについて、正しいのはどれか。

- a 小児に比べて大人の罹患率が高い。
- b 罹患数は1シーズンに1～2万人である。
- c 4月から5月にかけて流行のピークがある。
- d 他の年齢層に比べて高齢者の致死率が高い。
- e オセルタミビル耐性のウイルス株が90%以上を占める。

27 発声能力を定量的に表す最長発声持続時間に影響しないのはどれか。

- a 性別
- b 年齢
- c 呼吸機能
- d 鼻閉の程度
- e 声門閉鎖の程度

28 ミトコンドリア遺伝病について正しいのはどれか。

- a 女性患者が多い。
- b 両親が保因者である。
- c 次子の罹患率を予測できる。
- d 子は親より重症化する傾向がある。
- e ミトコンドリア遺伝子の点変異は母から子に伝達する。

29 栄養と病態の組合せで正しいのはどれか。

- a アルコールの摂取 ————— 尿酸の排泄低下
- b 高い糖質摂取割合 ————— 体重の減少
- c 2週間の絶食後の輸液 ————— マラスムス
- d タンパク質の過剰摂取 ————— 胆石形成
- e 動物性脂肪の過剰摂取 ————— 血中 LDL コレステロールの低下

30 双胎妊娠の超音波検査の結果(別冊No. 3 ①～⑤)を別に示す。

2絨毛膜2羊膜性双胎と判断できるのはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊 No. 3 ①～⑤
------------------

31 ウイルスに初感染した際に感染初期から働く免疫担当細胞はどれか。2つ選べ。

- a B細胞
- b T細胞
- c NK細胞
- d 形質細胞
- e マクロファージ

32 高齢者の転倒リスクを高める薬剤はどれか。2つ選べ。

- a 降圧薬
- b 骨粗鬆症治療薬
- c 尿酸排泄促進薬
- d ビタミンD製剤
- e ベンゾジアゼピン系抗不安薬

33 低補体血症を認める疾患はどれか。2つ選べ。

- a 蜂窩織炎
- b 細菌性肺炎
- c 虚血性大腸炎
- d 急性糸球体腎炎
- e 混合型クリオグロブリン血症

34 欠乏すると認知障害をきたす可能性が高いのはどれか。3つ選べ。

- a ビタミン A〈レチノール〉
- b ビタミン B<sub>1</sub>〈チアミン〉
- c ビタミン B<sub>3</sub>〈ナイアシン〉
- d ビタミン B<sub>12</sub>〈コバラミン〉
- e ビタミン C〈アスコルビン酸〉

35 43歳の男性。腰背部、両肘および両膝の皮疹を主訴に来院した。5年前に発症し、次第に範囲が拡大するため受診した。同部位に鱗屑を伴う境界明瞭な地図状紅斑を認める。両手示指、中指および環指の遠位指節間関節の腫脹を認める。真菌直接鏡検は陰性であった。腰背部の写真(別冊No. 4)を別に示す。

この患者でみられるのはどれか。

- a Darier 徴候
- b Gottron 徴候
- c Köbner 現象
- d Leser-Trélat 徴候
- e Nikolsky 現象

別 冊

No. 4

36 78歳の男性。頭部の皮疹を主訴に来院した。7か月前に頭部に紫紅色斑が出現し、次第に拡大、隆起し、出血するようになった。頭部の写真(別冊No. 5A)及び同部の病理組織 H-E 染色標本(別冊No. 5B)を別に示す。

診断はどれか。

- a 血管肉腫
- b 基底細胞癌
- c 海綿状血管腫
- d グロムス腫瘍
- e 巨細胞性動脈炎〈側頭動脈炎〉

別 冊 No. 5 A、B
------------------

37 35歳の女性。月経痛と過多月経を主訴に来院した。月経は周期28日型、整、持続8日間。3年前から月経痛に対して市販の鎮痛薬を服用しているが、6か月前から仕事や日常生活に差し支えるようになったため受診した。内診で子宮は15cmに腫大し硬く、可動性は良好である。付属器は触知しない。血液所見：赤血球340万、Hb9.0g/dL、Ht28%、白血球4,100、血小板23万。骨盤部単純MRIのT2強調矢状断像(別冊No. 6)を別に示す。

診断はどれか。

- a 子宮筋腫
- b 子宮体癌
- c 子宮肉腫
- d 子宮腺筋症
- e 子宮内膜増殖症

別 冊 No. 6
--------------

38 10歳の男児。腹痛と下痢を主訴に母親に連れられて来院した。母親に確認したところ、4日前に郊外の宿泊施設で行事に参加した多数の児童と保護者に腹痛、嘔吐、下痢等の消化器症状があることが分かった。

この症状の原因となったと考えられる汚染源と病原体の組合せで誤っているのはどれか。

- a 海水 ————— レジオネラ
- b 食材 ————— ノロウイルス
- c 井戸水 ————— エルシニア
- d 水道水 ————— クリプトスポリジウム
- e プールの水 ————— 病原性大腸菌

39 72歳の男性。労作時呼吸困難を主訴に来院した。安静時 SpO<sub>2</sub> 94% (room air) であり、6分間歩行試験で歩行開始4分後に SpO<sub>2</sub> 88% (room air) へ低下し下肢の疲労を訴えたため歩行試験を中止した。安静時および歩行中止直後(労作後)に動脈血ガス分析を行った。

予想される結果はどれか。

- a 安静時 PaO<sub>2</sub> 96 Torr、労作後 PaO<sub>2</sub> 76 Torr
- b 安静時 PaO<sub>2</sub> 88 Torr、労作後 PaO<sub>2</sub> 66 Torr
- c 安静時 PaO<sub>2</sub> 76 Torr、労作後 PaO<sub>2</sub> 55 Torr
- d 安静時 PaO<sub>2</sub> 58 Torr、労作後 PaO<sub>2</sub> 42 Torr
- e 安静時 PaO<sub>2</sub> 116 Torr、労作後 PaO<sub>2</sub> 60 Torr

40 74歳の男性。1週前に大動脈弁狭窄症に対して大動脈弁置換術を施行した。術後経過は良好で退院を目指し、一般病棟でリハビリテーションに励んでいた。昨日から食欲不振があり、今朝から息切れと全身倦怠感を訴えている。意識は清明。体温 36.7℃。脈拍 100/分、整。血圧 94/74 mmHg。呼吸数 18/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。眼瞼結膜は軽度貧血様で、眼球結膜に黄染を認めない。頸静脈怒張を認める。心音は減弱。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、胸部正中に手術痕を認める。血液所見：赤血球 352 万、Hb 10.7 g/dL、Ht 31%、白血球 8,700、血小板 10 万。血液生化学所見：アルブミン 3.3 g/dL、総ビリルビン 1.2 mg/dL、AST 31 U/L、ALT 52 U/L、LD 331 U/L (基準 120~245)、CK 50 U/L (基準 30~140)、尿素窒素 30 mg/dL、クレアチニン 1.1 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 5.1 mEq/L、Cl 99 mEq/L。CRP 1.2 mg/dL。胸部エックス線写真(別冊No. 7A)及び胸部単純 CT(別冊No. 7B)を別に示す。

症状に最も関連している病態はどれか。

- a 気胸
- b 貧血
- c 縦隔炎
- d 胸水貯留
- e 心嚢液貯留

別冊

No. 7 A、B

41 72歳の男性。肺がん検診で胸部異常陰影を指摘され来院した。左肺上葉に径25mmの結節影を認め、臨床病期IA期の原発性肺腺癌と診断された。心機能が低下しているため、手術療法は困難と判断され、根治目的に放射線治療を施行した。

治療終了3か月後の有害事象として認められる可能性が高いのはどれか。

- a 脱毛
- b 血球減少
- c 放射線肺炎
- d 放射線食道炎
- e 放射線皮膚炎

42 救急外来で小児を診察した研修医から指導医への報告を以下に示す。

研修医：「6歳の女児です。昨日から腹痛が持続するというので来院されました。

膝関節も少し痛むということです。2週前に上気道炎で自宅近くの診療所を受診されていました。発熱、下痢や嘔吐はありません」

指導医：「患児の外観はどうですか」

研修医：「腹痛があり少し苦悶様です」

指導医：「腹部所見はどうですか」

研修医：「臍周辺の圧痛を認めます」

指導医：「他の診察所見はどうですか」

研修医：「胸部聴診上、異常所見なく、咽頭発赤もありません」

指導医：「体幹に発疹はありますか」

研修医：「ありません」

指導医：「下腿に発疹はありませんでしたか」

研修医：「あ、下腿はみていません」

指導医：「下腿では、まずどのような所見を確認しますか」

これに続く研修医の返答として最も適切なのはどれか。

- a 「紫斑の有無を確認します」
- b 「白斑の有無を確認します」
- c 「静脈瘤の有無を確認します」
- d 「爬行性線状疹の有無を確認します」
- e 「café au lait 斑の有無を確認します」

43 日齢3の男児。黒色便を認めたため小児科に入院した。母親は35歳の経産婦で、出生時に異常はなかった。在胎40週、出生体重3,200g。完全母乳栄養である。体温36.7℃。心拍数130/分、整。血圧68/40 mmHg。呼吸数42/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は軽度の膨隆を認める。肝臓を右肋骨弓下に1 cm 触知するが、脾臓は触知しない。血液所見：赤血球450万、Hb 13.4 g/dL、Ht 36%、白血球8,800、血小板20万、PT-INR 2.0 (基準0.9~1.1)、APTT 40.7秒 (基準対照32.2)、PIVKA-II 350 mAU/mL (基準40 mAU/mL 未満)。血液生化学所見：総蛋白4.1 g/dL、総ビリルビン3.0 mg/dL、直接ビリルビン0.1 mg/dL、AST 30 U/L、ALT 28 U/L。CRP 0.1 mg/dL。注腸造影では異常を認めない。

対応として正しいのはどれか。

- a 緊急開腹術
- b 母乳の中止
- c 赤血球濃厚液の輸血
- d ビタミンK製剤静注
- e 5%アルブミン製剤点滴

44 85歳の女性。軽度の認知症(自立度Ⅰ)と問題行動(夜間せん妄)について要介護1の認定を受けている。訪問した介護福祉士が、処方薬(降圧薬)が不足していることに気づき、付き添って受診した。身長153cm、体重38kg。体温36.0℃。脈拍84/分、整。血圧162/88mmHg。呼吸数16/分。意識清明で問いかけには答えるが、口数が少なく、周囲を気にしておびえている様子がうかがわれる。眼瞼結膜に軽度貧血を認める。残存歯が3本のみで口腔内の衛生は不良である。皮膚はツルゴールがやや低下しており、腹部に湿疹を認め、掻破痕が著しい。四肢に外傷はないが、背部・臀部に新旧混在した複数の皮下出血斑や打撲痕を認める。介護福祉士によると、息子と2人暮らしで、息子は昼間外出していることが多く、不定期に就労しているらしいという。

まずとるべき対応はどれか。

- a ケアマネジャーに処方管理を依頼する。
- b 歯科衛生士を紹介受診させる。
- c 次回受診時に息子を同伴するように伝え、処方して帰宅させる。
- d 直ちに最寄りの警察に保護入所を依頼する。
- e 地域包括支援センターに虐待の可能性について相談する。

45 32歳の女性。市販の妊娠検査薬で陽性となったため来院した。月経周期は20日～60日と不規則で、最終月経開始日は受診日の10週前であった。基礎体温は記録していない。既往歴に特記すべきことはなかった。陰鏡診にて性器出血は認めない。経膈超音波検査にて子宮内に胎児を認め、頭殿長〈CRL〉は14mm(8週0日相当)、胎児心拍数は180bpmであった。

妊婦に対する説明で、正しいのはどれか。

- a 「子宮内感染が疑われます」
- b 「胎児は順調に発育しています」
- c 「流産する可能性が高いと思います」
- d 「入院して安静にする必要があります」
- e 「分娩予定日は最終月経から決定します」

46 34歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠38週1日、午前2時に規則的な子宮収縮と破水感のため来院した。これまでの妊娠経過に異常は指摘されていない。既往歴に特記すべきことはない。身長147 cm、体重62 kg(非妊時50 kg)。体温36.4℃。脈拍76/分、整。血圧132/74 mmHg。呼吸数18/分。子宮底40 cm、腹囲90 cm。内診所見は、先進部は児頭を触知し、子宮口は2 cm開大、展退度は50%、児頭下降度はSP-3 cm。推定胎児体重は3,880 gであった。陣痛発来と前期破水の診断にて入院となった。陣痛は徐々に増強し、午前8時の内診で、子宮口8 cm開大、児頭下降度はSP-1 cm、小泉門を1時方向に触知した。午前10時、子宮口は全開大したが、児頭下降度と児頭の回旋は変わらなかった。陣痛周期は2~3分間隔で持続時間は40秒。午後2時の時点で内診所見は変わらない。この時点の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 8)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 会陰切開
- b 吸引分娩
- c 経過観察
- d 帝王切開
- e オキシトシン投与

別冊

No. 8

47 53歳の男性。心房細動に対するアブレーション治療を目的として入院した。40歳時に僧帽弁狭窄症に対して機械弁置換術が行われワルファリンが開始となった。48歳時から高血圧症、糖尿病に対して薬物療法が行われている。5か月前に突然動悸を自覚し、定期的に通院している診療所で心房細動と診断された。その後も月に数回、3～5日程度持続する動悸発作が出現した。3か月前および1か月前の外来受診時の心電図でも心房細動が確認されたため、カテーテルアブレーション目的で紹介され入院となった。入院時は心房細動調律であった。入院2日目に行ったカテーテルアブレーションで洞調律に復帰し、入院6日目に退院となった。

退院後のワルファリン治療について正しいのはどれか。

- a 継続して行う。
- b アスピリンに変更する。
- c 動悸出現時に頓服する。
- d ビタミン K 製剤と併用する。
- e 直接経口抗凝固薬[direct oral anticoagulant(DOAC)]に変更する。

48 13歳6か月の男子。「身長が低く思春期の徴候の出現が遅いのではないか」と心配した母親に連れられて来院した。本人によると「最近少し声が低くなったと言われる」という。母親の初経は15歳時であった。身長152cm、体重41kg。外性器は正常男性型で、精巣容積は左右とも正常である。陰茎部にまばらな恥毛が認められる。腋毛は認められない。身長・体重の成長曲線は $-1.0$ SDに沿って成長している。

対応として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 頭部MRI
- c 成長ホルモンの測定
- d 甲状腺ホルモンの測定
- e 手根骨エックス線撮影

49 32歳の女性。多発関節痛を主訴に受診した。半年前に両側手指、手関節および膝関節痛を自覚し、自宅近くの医療機関で関節リウマチと診断され、メトトレキサートの投与を受けた。効果が不十分のためメトトレキサートを漸増されたが、多発関節痛は持続した。最近になり仕事にも支障をきたすようになったため、専門の医療機関を受診するよう勧められ受診した。体温 36.8℃、脈拍 76/分、整。血圧 128/82 mmHg。両側手関節、両側示指、中指の中手指節関節および両側膝関節に腫脹と圧痛を認める。皮疹は認めない。血液所見：赤血球 428 万、Hb 12.7 g/dL、Ht 38 %、白血球 7,900、血小板 28 万。血液生化学所見：総蛋白 7.2 g/dL、アルブミン 4.0 g/dL、IgG 1,230 mg/dL(基準 960~1,960)、AST 25 U/L、ALT 28 U/L、LD 225 U/L(基準 120~245)、尿素窒素 12 mg/dL、クレアチニン 0.5 mg/dL。免疫血清学所見：CRP 5.2 mg/dL、リウマトイド因子(RF) 132 IU/mL(基準 20 未満)、抗 CCP 抗体 112 U/mL(基準 4.5 未満)、抗核抗体陰性。

治療方針として最も適切なのはどれか。

- a コルヒチンを投与する。
- b 生物学的製剤を投与する。
- c ステロイドパルス療法を行う。
- d 免疫グロブリン製剤を投与する。
- e 半年間現在の治療で様子を見るよう勧める。

50 42歳の女性。自宅近くの歯科診療所で歯科金属のアレルギーを疑われ、検査を勧められて来院した。ネックレスとピアスで皮膚症状を生じたことがある。実施した皮膚検査の写真(別冊No. 9)を別に示す。

この検査で判定するアレルギー型はどれか。

- a I型
- b II型
- c III型
- d IV型
- e V型

別 冊

No. 9

51 42歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。横断歩道を歩行中、自家用車にはねられた。呼吸困難と胸痛を認める。意識は清明。心拍数 122/分、整。血圧 90/40 mmHg。呼吸数 25/分。呼吸音は右胸部で減弱しており、吸気時に右前胸部が陥凹する所見がみられた。来院時、SpO<sub>2</sub> 92% (マスク 5 L/分酸素投与下)であった。

前胸部陥凹の原因はどれか。

- a 血 胸
- b 横隔膜損傷
- c 横隔神経麻痺
- d 多発肋骨骨折
- e 心タンポナーデ

52 日齢25の女児。嘔吐を主訴に母親に連れられて来院した。在胎38週、出生体重2,850g。完全母乳栄養で生後11日頃から哺乳後に1日2～3回の嘔吐を認めたため受診した。吐物は母乳様で、排便は毎日あったという。身長50cm、体重3,520g(14日前の体重3,100g)。体温36.6℃。心拍数120/分、整。血圧90/62mmHg。呼吸数24/分。大泉門の陥凹はない。腹部は軽度膨満を認めるが、軟である。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)、尿比重1.005。血液所見：赤血球450万、Hb13.5g/dL、Ht43%、白血球7,400、血小板21万。血液生化学所見：AST38U/L、ALT28U/L、尿素窒素5.4mg/dL、クレアチニン0.3mg/dL、Na140mEq/L、K4.5mEq/L、Cl105mEq/L。CRP0.1mg/dL。上部消化管造影(別冊No. 10)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 緊急手術
- b 経管栄養
- c 静脈栄養
- d 制吐薬投与
- e 右側臥位保持

別 冊 No. 10
---------------

53 74歳の男性。心窩部痛を主訴に来院した。1週前から軽度の心窩部痛があり、症状が増悪するため受診した。上部消化管内視鏡像(別冊No. 11)を別に示す。

病変の部位はどれか。

- a 食道胃接合部
- b 胃穹窿部
- c 胃角部
- d 胃体部大彎
- e 胃幽門部

別 冊

No. 11

54 78歳の女性。化膿性脊椎炎と診断され入院中である。入院中に仙骨部褥瘡を生じた。同じ年齢の夫と2人暮らしであり、長女夫婦が隣町に在住している。在宅医療に向けて多職種スタッフや患者・家族による退院調整カンファレンスなどの準備を開始した。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 退院に向けた課題は退院日が決まってから抽出する。
- b 在宅における療養計画説明は診療録記載を必要としない。
- c 退院後も継続するケアプランは患者・家族が最終決定する。
- d 医師の指示で理学療法士が家屋環境の退院前訪問指導を行う。
- e 医療資格のない療養者家族は在宅褥瘡処置を行えないと説明する。

55 22歳の男性。家庭内で自室に閉じこもり「おれの悪口を言うな」、「外を通る人が窓からのぞいている」などの実際には認められないことを口走ることが多くなったため、両親とともに来院した。診察した精神保健指定医は、治療が必要であるが本人に治療意欲がないことを考え、医療保護入院とした。

禁止できるのはどれか。2つ選べ。

- a 弁護士との面会
- b 両親あての手紙
- c 友人あての電話
- d 家族の希望による自宅外泊
- e 精神医療審査会への退院請求

56 78歳の男性。2年前に脳梗塞を発症し右半身不全麻痺を認める。週1回ヘルパーに①掃除と②洗濯および③買い物をしてもらっている。④食事摂取は左手で可能で屋内では杖を使って歩行し⑤トイレ動作は自立している。

下線部のうちADLの評価項目に含まれるのはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

57 生後30分の男児。在胎40週0日、出生体重2,230g、Apgarスコア8点(1分)、8点(5分)で出生した。状態が安定していることを確認して早期母子接触を行った。その後、新生児室に入室した。入室時、低出生体重児のため小児科医の指示で次のバイタルサインを測定した。①体温35.5℃。②心拍数130/分。③血圧65/35mmHg。④呼吸数70/分。⑤下肢SpO<sub>2</sub>90%(room air)。

下線部のうち新生児の基準値内のバイタルサインはどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

58 28歳の経産婦(2妊1産)。妊娠31週0日、下腹部痛と性器出血を主訴に来院した。前回の妊娠は、妊娠32週0日で経膈分娩した。身長154cm、体重46kg(非妊時40kg)。体温36.6℃、脈拍72/分、整。胎位は頭位で推定胎児体重は2,000g。子宮に圧痛を認めない。腔鏡診にて腔内に少量の血液付着を認めるが、持続的な出血や羊水流出を認めない。経膈超音波断層法検査所見(別冊No. 12A)及び胎児心拍数陣痛図(別冊No. 12B)を別に示す。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬投与
- b 緊急帝王切開
- c 子宮頸管縫縮術
- d 子宮収縮抑制剤投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

別冊 No. 12 A、B
------------------

59 52歳の男性。目がチカチカすることを主訴に来院した。2か月前から特に自宅にいと症状が出現し、頭痛とめまいも伴っている。眼の掻痒感はみられない。5か月前に自宅を改築した。眼球結膜に軽度の充血を認める。他の身体診察に異常所見は認めない。

本患者の症状の原因として考えられるのはどれか。3つ選べ。

- a カビ
- b ダニ
- c 紫外線
- d 浮遊粒子状物質
- e 揮発性有機化合物

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

22歳の男性。墜落外傷のため救急車で搬入された。

**現病歴** : 地面から約6mの高所での作業中、誤って下肢から地面に墜落した。

強い腰痛と左下肢の痛みを訴える。

**既往歴** : 特記すべきことはない。

**生活歴** : 工事現場作業員。

**家族歴** : 祖父が糖尿病。

**現症** : 意識レベルJCS I-3。身長170cm、体重60kg。体温35.6℃。心拍数128/分、整。血圧88/60mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub>97% (リザーバー付マスク10L/分酸素投与下)。毛細血管再充満時間は3秒と延長している。瞳孔径は右4mm 左4mm、対光反射は正常。顔面に挫創がみられる。口腔からの出血はない。頸静脈の怒張はない。胸部は左前胸部に圧痛がみられる。両側呼吸音は正常で左右差を認めない。皮下気腫はない。左下肢は外旋位で痛みのため動かそうとしないが、知覚異常は認めない。左下腿の創部から持続出血がみられ、土が多量に付着している。左足趾の動きに異常を認めない。離握手や開眼、閉眼の指示に応じる。皮膚には冷汗と湿潤がみられる。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球360万、Hb10.8g/dL、Ht32%、白血球12,600、血小板30万、PT-INR1.4(基準0.9~1.1)、APTT41.0秒(基準対照32.2秒)、血漿フィブリノゲン168mg/dL(基準200~400)。血液生化学所見：総蛋白5.0g/dL、アルブミン2.9g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST60U/L、ALT22U/L、CK130U/L(基準30~140)、尿素窒素30mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、血糖124mg/dL、Na133mEq/L、K4.8mEq/L、Cl104mEq/L。12誘導心電図：正常。画像所見：迅速簡易超音波検査<FAST>で心嚢腔、胸腔および腹腔内の液体貯留はみられない。胸部エックス線写真で左4-7肋骨骨折と左肺野の透過性低下がみられる。骨盤エックス線写真で左第5腰椎横突起骨折、左腸骨骨折、左恥坐骨骨折および左仙腸関節の離開がみられる。下腿エックス線写真で左脛骨骨幹部骨折がみられる。

60 病態として最も考えられるのはどれか。

- a アナフィラキシーショック
- b 出血性ショック
- c 神経原性ショック
- d 心原性ショック
- e 閉塞性ショック

61 対応として適切なのはどれか。3つ選べ。

- a 試験開腹術
- b 輸血の準備
- c 下腿の筋膜切開
- d 骨盤骨折に対する創外固定
- e 破傷風トキソイドの筋肉内投与

62 その後、努力呼吸と舌根沈下が出現したため気管挿管を行った。CT 検査に向かう準備をしていたところ、急に SpO<sub>2</sub> が 70 % となった (6 L/分酸素投与下)。意識レベルは JCS III-100。脈拍 52/分、整。収縮期血圧 50 mmHg、拡張期血圧は測定不可。瞳孔径は右 3 mm、左 3 mm。対光反射は正常である。左前胸部に皮下気腫が出現した。聴診では左の呼吸音が消失し、打診で左前胸部に鼓音がみられる。再度行った迅速簡易超音波検査 (FAST) では心嚢腔、胸腔および腹腔内液体貯留はみられない。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a 胸腔穿刺
- b 胸骨圧迫
- c 高圧酸素療法 (高気圧酸素治療)
- d 心嚢穿刺
- e 鎮痛薬投与

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

83歳の男性。食欲が低下し元気がないため妻とともに来院した。

**現病歴** : 約5年前から物忘れが目立ち、Alzheimer型認知症と診断されていた。

1年前から記憶の低下がさらに進行し、5分前のことも忘れていたことが多かった。同居する妻によると、2週前に38℃の発熱があったが市販の総合感冒薬を内服して解熱したという。その頃から家でうとうとしながら座っていることが増え、食事も半分くらいに減った。1週前、通い慣れている施設から家へ帰る道が初めて分からなくなった。昨日トイレ動作にも介助を要するようになったため、他院において緊急で頭部単純CTを行ったが、異常はなかった。本人は特に苦痛を訴えないが、妻によると3日前から喀痰がみられるという。

**既往歴** : 糖尿病でDPP-4阻害薬を服用中である。

**生活歴** : 喫煙は20本/日を40年間。飲酒は機会飲酒。妻と2人暮らし。

**家族歴** : 父母とも老衰で死亡。

**現症** : 意識レベルはJCS I-2。身長165 cm、体重60 kg。体温37.0℃。脈拍96/分、整。血圧106/60 mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 94% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音に異常を認めない。右下背部にcoarse cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。浮腫を認めない。瞳孔と眼球運動とに異常を認めない。腱反射は正常で運動麻痺、感覚障害および運動失調を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)、沈渣に赤血球、白血球を認めない。血液所見：赤血球370万、Hb 12.0 g/dL、Ht 36%、白血球11,300(好中球79%、好酸球1%、好塩基球0%、単球6%、リンパ球13%)、血小板26万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、AST 22 U/L、ALT 11 U/L、ALP 217 U/L(基準115～359)、 $\gamma$ -GT 29 U/L(基準8～50)、アミラーゼ94 U/L(基準37～160)、尿素窒素29 mg/dL、クレアチニン1.1 mg/dL、血糖140 mg/dL、HbA1c 6.8% (基準4.6～6.2)、Na 136 mEq/L、K 4.6 mEq/L、Cl 96 mEq/L、Ca 8.2 mg/dL。CRP 20 mg/dL。

63 次に行うべき検査はどれか。

- a 頭部 MRI
- b 腰椎穿刺
- c 腹部造影 CT
- d 胸部エックス線撮影
- e 上部消化管内視鏡検査

64 検査の結果を確認すると「動脈血ガス分析(room air)：pH 7.38、PaCO<sub>2</sub> 45 Torr、PaO<sub>2</sub> 30 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26 mEq/L」とあった。患者の呼吸数や SpO<sub>2</sub>(room air)は来院時と変化はない。採血時の状況を確認すると、シリンジへの逆流が弱く陰圧をかけながら採取したとのことであった。

適切な対応はどれか。

- a 深呼吸を促す。
- b 酸素投与を開始する。
- c D ダイマーを測定する。
- d 心エコー検査を実施する。
- e 動脈血を採取しなおして分析する。

65 患者は入院加療の後、退院して介護保健施設に入所する方針となった。介助をすればきざみ食を摂ることができるが、食事にむせ込むことも多い。

今後の栄養摂取方法を決定するにあたりまず行うべきなのはどれか。

- a 握力の測定
- b 嚥下機能の評価
- c 骨密度の測定
- d 食事嗜好の確認
- e 地域の福祉事務所との相談

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

68歳の男性。歩行時の息苦しさとなぜか咳痰を主訴に来院した。

**現病歴** : 1週間前から歩行時の息苦しさとなぜか咳痰を自覚していた。

**既往歴** : 30歳時に虫垂炎のため虫垂切除術を受けた。65歳時にHIV感染症と診断されたが治療を受けずに通院を中断していた。同時期から不眠となり、ベンゾジアゼピン系薬を時折内服している。

**生活歴** : 会社員としてアメリカやヨーロッパで勤務した後に帰国、その後相談役として週2回程度出社している。喫煙は15本/日を20歳から40歳の20年間。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 父が高血圧症。

**現症** : 意識は清明。身長172 cm、体重58 kg。体温37.5℃。脈拍120/分、整。血圧120/40 mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 90% (room air)。頸部リンパ節に腫大を認めない。心音に異常を認めない。両側背部でfine cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腹部の手術痕以外に異常を認めない。背部に叩打痛を認めない。皮膚に異常を認めない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球300万、Hb 9.2 g/dL、Ht 30%、白血球4,800 (桿状核好中球17%、分葉核好中球67%、好酸球8%、好塩基球0%、リンパ球8%)、CD4陽性細胞数126/mm<sup>3</sup> (基準800~1,200)、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、アルブミン3.0 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 28 U/L、ALT 18 U/L、LD 250 U/L (基準120~245)、ALP 120 U/L (基準115~359)、尿素窒素40 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、Na 131 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 97 mEq/L。免疫血清学所見：CRP 3.2 mg/dL、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、HCV抗体陰性、HIV抗原・抗体陽性。動脈血ガス分析 (room air)：pH 7.43、PaCO<sub>2</sub> 35 Torr、PaO<sub>2</sub> 58 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 24 mEq/L。

胸部造影CT(別冊No. 13)を別に示す。

別冊

No. 13

- 66 この患者について正しいのはどれか。
- a A-aDO<sub>2</sub> は開大している。
  - b CO<sub>2</sub> ナルコーシスである。
  - c 直ちに気管挿管を実施する。
  - d 肺胞低換気が低酸素血症の原因である。
  - e ベンゾジアゼピン系薬の過量内服を疑う。
- 67 患者にサージカルマスクを着用してもらい、医療スタッフも N95 マスクを着用した上で陰圧個室において診療している。
- これらの感染予防策を解除するために最も有用な検査はどれか。
- a 喀痰 Gram 染色
  - b 喀痰 Grocott 染色
  - c 喀痰 Ziehl-Neelsen 染色
  - d 血中  $\beta$ -D-グルカン測定
  - e 血中結核菌特異的全血インターフェロン  $\gamma$  遊離測定
- 68 HIV 感染症の治療を開始することとなり、薬剤耐性検査を実施したところ陰性であった。
- 初回治療として適切なのはどれか。
- a プロテアーゼ阻害薬 1 剤
  - b 核酸系逆転写酵素阻害薬 2 種類の併用
  - c 核酸系逆転写酵素阻害薬 3 種類の併用
  - d インテグラーゼ阻害薬 1 種類と核酸系逆転写酵素阻害薬 2 種類の併用
  - e ノイラミニダーゼ阻害薬 1 種類と核酸系逆転写酵素阻害薬 2 種類の併用

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

69歳の男性。物忘れを心配した家族に伴われて来院した。

**現病歴** : 約1年半前から予定を忘れてしまうことが多くなった。約1年前から、日中、呼びかけへの応答が鈍くなる時間帯があることに気付かれるようになった。半年前から、時折、知らない子どもが隣の部屋で遊んでいると訴えるようになった。これらの症状が徐々に悪化するため来院した。

**既往歴** : 20歳時に急性虫垂炎で手術。

**生活歴** : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識は清明。意思疎通は可能である。礼節は保たれている。日付の失見当識を認める。失語、失行は認めない。身長170 cm、体重60 kg。体温36.4℃。脈拍92/分、整。血圧140/78 mmHg。長谷川式簡易知能評価スケールは20点(30点満点)。脳神経系に異常を認めない。四肢筋力は正常だが、四肢に軽度の歯車様筋強剛を認める。歩行時の姿勢は前傾しており、歩幅はやや小刻みである。腱反射は正常。運動失調、感覚障害を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球437万、Hb 13.5 g/dL、Ht 42%、白血球6,500、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白6.7 g/dL、アルブミン4.6 g/dL、総ビリルビン1.3 mg/dL、AST 21 U/L、ALT 17 U/L、アンモニア45 μg/dL(基準18~48)、尿素窒素15 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、尿酸7.2 mg/dL、血糖98 mg/dL、HbA1c 5.3% (基準4.6~6.2)、Na 142 mEq/L、K 4.1 mEq/L、Cl 102 mEq/L。頭部MRIでは軽度の大脳萎縮がみられる。脳血流SPECT(別冊No. 14)を別に示す。

別冊

No. 14

69 診断に有用な検査はどれか。

- a 脊椎 MRI
- b 脳脊髄液検査
- c 頸部超音波検査
- d 末梢神経伝導検査
- e MIBG 心筋シンチグラフィ

70 この患者で認める可能性が高い症状はどれか。

- a 起立性低血圧
- b 聴覚過敏
- c 筋萎縮
- d 羞明
- e 尿閉

71 受診から2か月後、歩行中に転倒して右上腕骨を骨折し、手術のため入院となった。右上腕部の疼痛を訴え、夜間不眠、興奮状態となり、自分が病院へ入院していることが理解できず病棟内を徘徊するようになった。また、幻覚症状が悪化した。これらの症状には日内変動がみられた。

まず行うべき対応はどれか。

- a 家族の面会禁止
- b 抗コリン薬の投与
- c 抗精神病薬の投与
- d ベンゾジアゼピン系薬の投与
- e 照明の調整による生活リズムの確保

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

42歳の男性。職場の健康診断で異常を指摘されて来院した。

**現病歴** : 20歳代の頃は体重68kg程度であったが、32歳での結婚を機に徐々に増加し、特にこの3年で10kg増加した。現在の体重は過去最大である。

**既往歴** : 特記すべきことはない。

**生活歴** : 喫煙歴はない。飲酒はビール500mL/日。仕事は事務作業で通勤以外の運動習慣はない。

**家族歴** : 父親が糖尿病、高血圧症、脳梗塞。

**現症** : 意識は清明。身長173cm、体重82kg、腹囲98cm。脈拍68/分。血圧146/92mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾は触知せず、皮膚線条は認めない。四肢に浮腫を認めない。皮膚の菲薄化を認めない。

**検査所見** : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)。血液所見：赤血球465万、Hb14.6g/dL、Ht46%、白血球6,800、血小板28万。血液生化学所見：AST38U/L、ALT78U/L、 $\gamma$ -GT52U/L(基準8~50)、尿素窒素19mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、尿酸6.8mg/dL、空腹時血糖116mg/dL、HbA1c6.2%(基準4.6~6.2)、総コレステロール264mg/dL、トリグリセリド212mg/dL、HDLコレステロール34mg/dL、Na141mEq/L、K3.5mEq/L、Cl98mEq/L。

- 72 この患者について現時点で判断できる異常はどれか。3つ選べ。
- a 糖尿病
  - b 高血圧症
  - c 高尿酸血症
  - d 脂質異常症
  - e メタボリックシンドローム
- 73 この患者に対して生活習慣の改善の一環として食事指導を行うことにした。  
正しい内容はどれか。  
ただし、この患者の消費エネルギーは約2,400 kcal/日であると仮定し、今後、  
3か月で約3～4 kgの減量を目指すこととする。
- a 総エネルギー量を2,100 kcal/日とする。
  - b 炭水化物を総エネルギー量の30%とする。
  - c 蛋白質を200 g/日とする。
  - d 脂質を150 g/日とする。
  - e 食塩を10 g/日とする。
- 74 この患者で増加しているのはどれか。
- a LDLのみ
  - b HDLのみ
  - c VLDLのみ
  - d LDLとHDL
  - e LDLとVLDL

75 調査開始時に肺癌に罹患していなかった10万人をその時点の喫煙状況で2つのグループに分けた。調査開始後5年間の肺癌罹患の有無を調べた結果を以下に示す。

(単位：人)

調査開始時点の喫煙状況	調査開始時点の人数	調査期間中に肺癌に罹患した人数
喫煙者	40,000	408
非喫煙者	60,000	72
計	100,000	480

喫煙による肺癌罹患のリスク比を求めよ。

ただし、小数第2位以下の数値が得られた場合は、小数第2位を四捨五入すること。

解答：  .

- ①    ②
- 0    0
- 1    1
- 2    2
- 3    3
- 4    4
- 5    5
- 6    6
- 7    7
- 8    8
- 9    9











